

アバスチン + SOX 療法

FN 低:催吐性 中
診断名:進行・再発大腸癌

○投与スケジュール (1 コース 21 日)

Day1(点滴):エルプラット(L-OHP) div 130 mg/m²
1段階減量 100mg/m²、2段階減量 75mg/m²

Day1(点滴):アバスチン div 7.5mg/kg

Day1~14(内服):S-1 po 80~120 mg/日

1日2回 朝・夕食後30分以内に内服。14日間服用後7日間休薬。

Day2~Day3(内服):デカドロン8mg 分2朝・昼の内服を投与する。

○投与基準

<TS-1 の投与量>

- ①80mL/min ≤ Ccr: 基準量
- ②60 ≤ Ccr < 80mL/min: 基準量(必要に応じて1レベル減量)
- ③40 ≤ Ccr < 60mL/min: 1レベル以上減量
- ④Ccr < 40mL/min: 投与不可

★エルプラット注:アレルギー発現注意!! 累積投与量が 401mg/m² 以上 or 半年以上休薬あり再投与する場合は重篤なアレルギー反応を惹起する可能性あり。再投与の意義がリスクを上回ると考えられる場合は、前投薬の強化などを考慮する。

<強化例>前投薬にファモチジン注 20mg+ポラミン注 5mg を追加

【投与開始基準】

白血球数	3,000/mm ³ 以上
好中球数	1,500/mm ³ 以上
血小板数	75,000/mm ³ 以上
AST/ALT	100IU/L(肝転移がある場合は200IU/L)以下
血清クレアチニン	1.5mg/dL 未満
感染	感染を疑う 38°C以上の発熱がない
下痢・粘膜炎・口内炎	Grade1 以下
神経障害(感覚性)	Grade2 以下: SOX+BV として投与可
	Grade3 : S-1+BV として投与(L-OHPスキップ)

【アバスチン開始基準】

- ・蛋白尿:1+以下、又は 24 時間蓄尿にて蛋白尿が 2g以下
- ・血栓症・塞栓症:Grade0
- ・出血:Grade1(治療を要さない)以下

【各薬剤の減量基準】

▼S-1/L-OHP の減量基準

項目	基準	S-1	L-OHP
白血球数	1,000/mm ³ 未満	1段階減量	1段階減量
好中球数	500/mm ³ 未満	1段階減量	1段階減量
	次コース開始予定日(Day22)にコース開始基準を満たさない場合	1段階減量	1段階減量
発熱性好中球減少	Grade3 以上	1段階減量	1段階減量
血小板数	50,000/mm ³ 未満	1段階減量	1段階減量
	50,000/mm ³ 以上 75,000/mm ³ 未満	—	1段階減量
	次コース開始予定日(Day22)に7,500/mm ³ 以上 100,000/mm ³ 未満の場合*	—	1段階減量
下痢	Grade3 以上	1段階減量	—

*次コース開始予定日に血小板数 7,500/mm³以上 100,000/mm³未満の場合には、L-OHP を1段階減量して、次コースを開始すること。ただし、さらに次コース以降も 7,500/mm³以上 100,000/mm³未満が継続する場合は、L-OHP の減量を必須とはしない。

▼S-1/L-OHP の用量レベル

	S-1			L-OHP
	体表面積 1.25 m ² 未満	体表面積 1.25 m ² ～1.5 m ² 未満	体表面積 1.5 m ² 以上	
初回基準量	80mg/日	100mg/日	120mg/日	130mg/m ²
1段階減量	60mg/日*	80mg/日	100mg/日	100mg/m ²
2段階減量	50mg/日*	60mg/日*	80mg/日	75mg/m ²

・コース治療中や休薬期間中に減量基準に1つでも該当した場合は、上表の用量レベルに従って1レベルずつ減量する。

1段階減量後も減量基準に該当する場合は、さらにもう1レベル減量(2段階)を考慮する。ただし、減量は2段階まで可能とする。

・L-OHP を2段階減量し、さらに減量が必要な場合はL-OHP を中断する。ただし、コース開始基準をすべて満たす


ことを確認した場合は、再開を考慮する。

・1日のS-1の投与量が60mgの場合は、朝40mg、夕20mgに分割して投与する。

*国内第Ⅲ相試験(SOFT試験)における減量投与量であり、S-1の用法・用量外である。

▼アバスチンの投与中止基準

項目	投与中止基準
血栓症/塞栓症(静脈系)*	Grade3 以上
血栓症/塞栓症(動脈系)*	Grade1 以上
消化管穿孔	Grade1 以上
出血	Grade3 以上
高血圧	薬剤でコントロールできない Grade3 以上

1 つでも該当  *SOFT 試験ではアバスチンの血栓症、塞栓症の投与中止基準は「Grade3 以上」中止でしたが、最新のアバスチンの適正使用ガイドより基準を修正。

※注意事項:投与を中止した場合、上記の症状が軽快/回復しても、以後のアバスチン投与は再開せず、S-1(+L-0HP)として投与の継続を考慮する。